佐藤一斎の教え解説

「重職心得箇条」テーマ

多治見

恵那市出身の江戸後期の儒学者佐藤一斎の教えを学ぶ人材育成講座（東濃信用金庫主催）が6日、多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールであり、NPO法人いわむら一斎塾の鈴木隆一理事長が「今に活きる佐藤一斎の『重職心得箇条』」をテーマに講演した。



「重職心得箇条」を解説する鈴木隆一理事長＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

講座は2015年から毎年2回シリーズで開き、通算で19回目。取引先企業の経営者や市民らオンラインも含め約50人が参加した。

重職心得箇条は学者の身分のまま岩村藩の家老になった一斎が、重臣向けに書いた心得書。人の上に立つ心構えや考え方、行動が17カ条にまとめられている。鈴木理事長は一条ずつ読み上げ、要約や解説をした。

このうち「重職たるもの、勤向繁多と云ふ口上は恥ずべき事也」で始まる条文は「仕事向きが極めて多忙だ、などと口にするのは恥ずべき」との意味だとし「重職が部下の仕事に自ら手を出してそれぞれの担当者に任せられないから、重職に仕事が増えて多忙を極めるという自然の成り行きになる」などと訳を続けた。

決まりにこだわらない、大局に立ち公平に―といった趣旨の条文に触れ「上に立つ者は学び、新しい情報を得ることが必要」と繰り返し訴えた。次回は27日午後3時半から、サラダコスモ（中津川市）の中田智洋社長が「『言志四録』から学ぶ、経営者が持つべき心構えとリーダーシップ」をテーマに語る。参加無料。要予約。問い合わせはとうしん地域活力研究所、電話0572(28)3021。

（小森直人）

無断複製・転載を禁じます